

[23_06]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470155>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 23 (6), 1990-11-26. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



連絡所めぐり

前回より掲載しています連絡所めぐりいかがですか。各連絡所の様子が少しわかり、親近感が増したのではないのでしょうか。おかげさまで、各連絡所のご協力により、アンケートは現在半数近く回答が集まりました。今回までに掲載できなかった連絡所の分は、VOL. 24, NO. 1に掲載します。また、まだ提出されていない連絡所には順次再依頼しますので、是非ご協力方お願いします。

1 1. 長崎総合科学大学連絡所

- ・連絡所所在地 〒851-01 長崎県長崎市網場町536番地
長崎総合科学大学情報科学センター
- ・連絡所の紹介 当連絡所は、大学院工学研究科及び工学部5学科からなる学術研究用のための連絡所として1988年より設置され、センター所長以下7名の教員スタッフ（兼担1名を含む）と専任職員2名、臨時職員1名で構成されています。1990年3月現在設置されている機種は、日本電気（株）製 NEC ACOS 610/10（メモリ：32MB、処理速度2.2MIPS、補助記憶容量6ギガバイト）、NEC PC semi AVネットワークシステム 端末60台とNEC EWS 4800/10 1セットで、教育及び研究用に、学内PBXLAN回線 50回線及び九州大学センターとDDX-P（1回線）で接続されています。現在の問題点としましては、異機種ホスト間でのデータの親和性が無い（少なくともACOS間）という事です。

1 2. 広島県立大学連絡所

- ・連絡所所在地 〒727 広島県庄原市七塚町 562
広島県立大学情報教育センター
- ・連絡所の紹介 本学情報教育センターは、センター長（兼職）、講師1名及び事務職員1名で構成されています。計算機システムは、ホスト機がACOS 910/10で、ホスト機に接続されている端末機は現在センター内LANに122台（PC9801RA5 67台、PCH98 49台、EWS 4800 6台）、学内LANに15台の合計137台となっています。ネットワーク関係では、上記のLANの他、学情ネットに加入しています。本学は平成元年度開学の新設校であり、センターにおいても検討すべき問題は山積しています。一例としては、現在のシステムは1台のメインフレームをホストとする集中システムであり、レスポンスの改善が問題となっています。

13. 九州女子大学連絡所

- ・連絡所所在地 〒807 福岡県北九州市八幡西区折尾自由ヶ丘
九州女子大学家政学部家政学科(栄養指導研究室)
- ・連絡所の紹介 当大学では、WS(ワークステーション)4台とパソコン36台がイーサネット接続されたLANが情報処理教室に1989年9月に構築された。WSはSONYのNEWS1750とPOPNEWS。女子大図書館にもWSはSONYのNEWS1750と1860をホストとして、パソコン7台を端末とした検索システムが設置され、蔵書中の1万冊の入力作業が6月に完了し、平成3年秋の本稼働を目指している。なお、情報処理教室と図書館は九州共立大学のミニコン(A600)と接続されており、SSNET回線経由で九州大学の大型計算機センターと接続することができる。

14. 広島工業大学電子計算機センター連絡所

- ・連絡所所在地 〒731-51 広島県広島市佐伯区三宅2丁目1-1
広島工業大学 電子計算機センター
- ・連絡所の紹介 電子計算機センターの構成員は、所長(兼務)、専任教員(2名)、事務長(兼務)、技術員(1名)、事務員(3名)、アルバイト(1名)で成り立っています。設置されている計算機は、HITAC M-280Dで、現在卒業研究、教員の研究、実習、事務処理等に利用されています。回線の接続状況は、学内的には、分散している各学科の校舎に専用TSS端末室を置き、これとセンターマシンを結んでいる。また、各研究室からもデジタルPBXを経由して、電話回線より9600BPSを実現している。学外のネットワークとは未接続である。

15. 有明工業高等専門学校連絡所

- ・連絡所所在地 〒836 福岡県大牟田市東萩尾町150
有明工業高等専門学校 電子計算機室
- ・連絡所の紹介 本校電子計算機室は機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、工業化学科、建築学科の5学科の共通な情報処理基礎教育の学内センターとして機能する一方、九州大学大型計算機センターの連絡所として教官研究の仲介役としての役割を担っている。ホストコンピュータFACOM M130F(主記憶4MB)と専用端末装置11台を接続及びFACOM M330FX(主記憶5MB)にパソコン端末(FMR-50)40台を接続、さらにデータ回線により各学科に5台ずつのモデム付き電話を配置し各学科内所有のパソコンとの接続を可能にしている。パソコンは学生数が増加するに従い上記端末装置以外に、5台追加増設し、スタンドアロン

で、BASIC, C, PASCAL等の言語教育を実施している。
 教官研究、卒業研究は年々大規模計算、多様なアプリケーションソフトの需要、大容量ファイルの需要等本校設置程度のホストコンピュータでは対応できない様な様々な要望が強くなってきている。従って、多様なアプリケーションは九州大学大型計算機センターの利用が必要で、その意味では、本校の地域性から考慮し遠隔地の不便性を解消する方策として、貴センターと本校ホストコンピュータとの交換回線接続あるいは専用回線接続を今後検討すべきではないかと検討模索中である。

1 6. 琉球大学情報処理センター連絡所

- ・連絡所所在地 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
琉球大学情報処理センター
- ・連絡所の紹介 当センターは、学内共同利用施設として位置づけられ、研究、教育、事務処理の利用に供されている。設置されている機器はFACOM M760/8で主記憶容量は48MB、磁気ディスクの記憶容量は10GBである。運用組織は、センター長（兼任）、センター教官（1人）、文部技官（2人）、非常勤の事務補佐員（1人）及び、センター員制度の採用による、併任教官（14人）により構成されている。ホストコンピュータは主に教官の研究や情報処理教育授業に伴う学生の実習、学務や図書館等の業務に利用されている。各大型計算機センターへの利用申込み件数は、九州大学（22）、京都大学（2）、東北大学（1）、東京大学（1）、北海道大学（1）となっている。

1 7. 佐世保工業高等専門学校連絡所

- ・連絡所所在地 〒857-11 長崎県佐世保市沖新町1-1
佐世保工業高等専門学校電子計算機室
- ・連絡所の紹介 電子計算機室は、全学科共同利用施設で、構成員は、電子計算機室長・教官（兼任）1名、技官1名から成り立っている。設置されている計算機の種類は、汎用機 FACOM M-130Fで、主に教官の研究及び卒業研究に使われており、使用言語としてはFORTRANが多く、ライブラリ関係では、科学技術計算ライブラリ（SSLII）がよく使われている。回線の接続状況は、外部、内部ともまだ接続されていない。問題点としては、計算機の性能、また、使用環境などすでにワークステーションや、もはやパソコンクラスよりも劣っており、これから先今以上の利用者の増大は望めないというのが現状である。しかし、平成2年度に計算機の更新が認められ、本格的に稼働するのは平成3年度からであるが、新しい機種に期待がかかっているところである。

18. 呉女子短期大学連絡所

- ・連絡所所在地 〒737 広島県呉市阿賀南2-10-3
呉女子短期大学 一般教育
- ・連絡所の紹介 責任者の私は中間エネルギー物理学の研究が専門分野ですが、九州大型計算機センターを文献検索や大型計算に利用しています。(広島大学が共同利用の計算センターになると更に便利ですが。)

19. 航空大学校連絡所

- ・連絡所所在地 〒880 宮崎県宮崎市大字赤江字飛江田
航空大学校宮崎本校
- ・連絡所の紹介 連絡所では、責任者を通じてセンターからの広報等の配布または出張利用申請などを行っている状況です。構成員は、教授4名と助教授1名の5名です。設置されている計算機等は、ワークステーション NEC EWS 4800/50, パソコン NEC PC9801UV11, パソコン富士通 FMR70HX1M2で、ワークステーションによる数値計算(FORTRAN)及びパソコンによる九大センターのTSS利用(FORTRAN)を行っています。従来は、文字バケがひどくファイル転送は安心して行えませんでした。2400bps MNPクラス5/9600bps MNPクラス6モデムを用いるようになってかなり快適に使用できるようになりました。問題点は、九大センターと接続すると電話代がかかる(260円/3分)ことで、安心して利用できない点です。

20. 九州国際大学電子計算機室連絡所

- ・連絡所所在地 〒805 北九州市八幡東区枝光5-9-1
九州国際大学法経学部
- ・連絡所の紹介 今年(1990年)4月より、改組で電算室が情報システム課になり、従来行ってきた教育・研究の支援をしなくなり、事務処理のみを担当することになりました。機器は、FACOM M-340R と端末が全学で約20台、その他パソコンが5台(FMR3台, PC-9801 1台, Macintosh 1台)です。M340Rは、プログラミング教育(週4コマ開講)に使われていますが、研究用にはまったく使われていません。あまりの遅さに担当教員が自分の研究室のWS(Sun Sparc Station 1)を使い始めたからです。現在事務職員が4人働いていますが、目下の急務は教育用にパソコンを50台程導入することです。

2 1. 久留米大学コンピュータ教育センター連絡所

・連絡所所在地 〒830 福岡県久留米市御井町1635
久留米大学コンピュータ教育センター

・連絡所の紹介 本学には、御井地区と旭町地区の二箇所に連絡所を設けている。御井地区においては、S50年4月に教育・研究用としてミニコン型FACOM MATE IIを導入し、S50年5月に久留米大学コンピュータ室として発足した。S55年3月にFACOM M150を導入しコンピュータセンターとなった。S59年4月には、学内の情報処理システムの整備と充実のためコンピュータ教育センターと改組した。連絡所の発足はS45年に医進課程の生物教室の教授室に設け、平成2年4月に当コンピュータ教育センターが連絡所となった。構成員は、所員9名(商学部4名、法学部2名、医進課程1名、附設中高1名、事務室長1名)庶務管理部門事務1名の合計10名で、設置されている計算機等の種類は、FACOM M150Fです。

学生には、COBOL、FORTRAN、BASICプログラミングを開設して、課題を与えながらプログラミング技術の習得のみならず、コンピュータの有効利用に対する教育を実施している。その他、各種統計処理等の手法の習得やアルゴリズム教育の実施。研究用としては、各種アプリケーションパッケージが使用されている。連絡所の問題点としては、現在使用しているFACOM M150は10年前に購入した汎用機であり大量データの時系列分析や大規模シミュレーションの取扱いはまず無理であり、グラフィックや統計処理を教育に持ち込もうにも器が小さい。現在新機種更新について鋭意検討中である。

2 2. 大島商船高等専門学校連絡所

・連絡所所在地 〒742-21 山口県大島郡大島町小松
大島商船高等専門学校電子計算機室

・連絡所の紹介 本連絡所内には、東芝、DS-6040をホストにPC9801を46台接続し教育・研究に供しているが計算機室長(教官が兼任)と、学生課教務係(事務官)が主な運用にあたり、専任担当者がいない状態である。また、九大センターを利用するものが少ないため連絡所内には端局が設置されておらず、利用者がモデムを利用し電話回線で直接接続している。このため、遠方でもあり電話料金負担が重く主として文献検索などの短時間での利用が中心となっている。

23. 九州芸術工科大学連絡所

- ・連絡所所在地 〒815 福岡県福岡市南区塩原4丁目9番1号
九州芸術工科大学情報処理センター
- ・連絡所の紹介 九州芸術工科大学情報処理センターの情報処理システムは、平成2年3月に新システムが導入され、汎用機からUNIXマシンへと移行した。本学の新システムは、富士通社製のスーパーミニコンピュータA(エース)シリーズの最上位機種であるA700をホストコンピュータとして、学内LANを通じて各研究室のワークステーション(Σ230/C12等)と接続された分散システムである。この他、特殊処理用として、FIVIS(色彩画像処理)、Stellar GS1000(3次元図形処理)、MASSCOMP MC6400(信号処理)が設置され、いずれもLANに接続されている。また、入門教育用として、FMR-50HXを42台設置している。九州大学の大型計算機センターとは、Σ230(FCAT)で接続されており、一般科学計算の他に文献検索や電子メールの利用を行っている。

24. 福岡歯科大学連絡所

- ・連絡所所在地 〒814-01 福岡県福岡市早良区大字田700
福岡歯科大学教養課程物理研究室
- ・連絡所の紹介 本学にはパソコンを除き研究用の計算機がありません。九大計算機センターを使っているのは現在7名で、そのうち3名がいる教養物理の研究室で連絡所の係をしています。パソコンを端末機として電話回線で九大とつながっていますが内線を通してやっていますので雑音が多いことに困っています。特に回線接続時のブレイク信号が非常に入りにくく、九大センターの側で信号の長さなど改善してほしいと思います。

25. 東和大学NETWORK委員会連絡所

- ・連絡所所在地 〒815 福岡市南区筑紫丘1-1-1
東和大学中央科学研究所システム開発研究部門
- ・連絡所の紹介 今まで、東和大学電子計算機室を連絡所として運営してきましたが、現在使用しているIBMの汎用機に直接つながっていないので、今後、上記のように変更いたします。
本学では研究所の設置に伴う、組織及び計算機の機種の見直しが進められているため、今から2~3年で大きく変化するはず・・・変化するといったと思っています。

ライブラリ室だより

今回の広報の掲載資料に「コンプリート形式プログラム使用頻度調査」及び「サブルーチン形式プログラム使用頻度調査」がありますが、実はこれもライブラリ室のお仕事の一つなのです。

4月～9月の上半期の統計を11月25日発行の広報に、10月～3月の下半期の統計を5月25日発行の広報に年2回掲載しています。

「はじめてみた!」「なにこれ?」という方はまさかいらしゃいませぬよね!?

何でもないような資料なのですが、センターの使用状況や利用者の傾向がわかり、その他にも利用される方しだいで諸々の活用のおもひがあるとおもうのですが...

もう一つ忘れられてしまうんじゃないかと思う資料に、「ソフトウェア一覧」、「マニュアル一覧」があります(前回の広報に掲載)。この資料は、毎年1回、9月25日発行の広報に掲載しています。

たまに「図形を描きたいのですが、どんなライブラリを使ったらいいですか?」とか、「どんなマニュアルがあるのですか?」といった若葉マークのセンター利用者の方からの質問があります。すぐプロ相室へかけこむのもいいですが、これらの資料をぜひ一読してみてください。道しるべになるかもしれませんよ。

また、ベテランの利用者の方々にとっても、毎年毎年どんどん増えていく新しいソフトウェアに対して、知らない間に新しいソフトがセンターで使用できるようになっていた!なんてことのないように、再確認の意味でも目を通して見て下さい。

「ソフトウェア一覧」の中にでてくる参考文献にあるマニュアル番号は、「マニュアル一覧」の中の番号です。この二つの資料はペアでお使い下さい。別刷は5F共同利用掛受付に申しできればもらえます。

毎回、これらの資料を無視していたあ・な・た...もしかしたら何か新しい発見があるかもしれませんよ!?

なんと早いもので今回の「ライブラリ室だより」は今年最後になってしまいました。今年のライブラリ室も、ソフトウェアの新規導入、バージョンアップ、レベルアップ、障害修正、ソフトウェアの譲渡、講習会、広報解説記事、資料の作成、利用者からの相談・質問、マニュアル整理、「JCL編」作成...と一年中走り回りました。こうやってあわただしく毎日が過ぎ去っていくと、「果たしてこれらの仕事が本当に利用者に役だっているのだろうか?」「本当に利用者が必要にしているものが何か他にあっては?」などと、いろいろ不安になったりするのは、

どんな小さなことでも結構です。ライブラリ室に対するご意見ご希望をどしどしお寄せ下さい。

(ライブラリ室 内線2508)